

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		学部設置								
フリガナ 設置者		カクコウホウシン セイカクエン 学校法人 佐藤栄学園								
フリガナ 大学の名称		ヘイセイカクタイ 大学 平成国際大学								
大学本部の位置		埼玉県加須市水深大立野2000番地								
大学の目的		教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、学校法人佐藤栄学園の建学の精神である「人間是宝」を旨として、幅広い教養を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって我が国及び国際社会の発展と人類の福祉に寄与しうる人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		数理・データサイエンス・AIの知識と技能を活用し、DXを通じて社会・企業等が直面する課題を実践的に解決できる人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	情報デザイン学部 情報デザイン学科	年	人	年次人	人	学士（情報デザイン学）	工学関係	年 月 第 年次	埼玉県加須市水深大立野2000番地	
	計	4	100	—	400			令和8年4月 第1年次		
同一設置者内における変更 （定員の移行、 名称の変更等）		法学部 法学科〔収容定員変更〕（△400人）（令和7年4月届出予定）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	情報デザイン学部	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
		92科目	26科目	7科目	125科目					
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	情報デザイン学部 情報デザイン学科	9人 (7)	2人 (2)	4人 (4)	1人 (1)	16人 (14)	0人 (0)	37人 (21)	大学設置基準別表 第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (7)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	15 (13)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	9 (7)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	15 (13)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)				
	計（a～d）	9 (7)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	16 (14)				
分	計	9 (7)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	16 (14)	0 (0)	— (—)		

既設	法学部 法学科		11 (14)	6 (6)	5 (2)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	35 (35)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 11人	
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (14)	6 (6)	5 (2)	0 (0)	22 (22)				
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）		11 (14)	6 (6)	5 (2)	0 (0)	22 (22)				
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、 b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）		11 (14)	6 (6)	5 (2)	0 (0)	22 (22)				
	設	スポーツ健康学部 スポーツ健康学科		8 (8)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	23 (23)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 9人
		a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	19 (19)			
		b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		小計（a～b）		8 (8)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	19 (19)			
		c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、 b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		計（a～d）		8 (8)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	19 (19)			
分	計		19 (22)	10 (10)	12 (8)	1 (1)	41 (41)	0 (0)	— (—)		
	合 計		28 (29)	12 (12)	15 (12)	2 (2)	57 (55)	0 (0)	— (—)		
職 種			専 属			その他		計			
事 務 職 員			35 (35)			0 (0)		35 (35)			
技 術 職 員			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
図 書 館 職 員			2 (2)			0 (0)		2 (2)			
そ の 他 の 職 員			3 (3)			0 (0)		3 (3)			
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計			40 (40)			0 (0)		40 (40)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		借用面積 7,553.00㎡ 25年
	校 舎 敷 地		130,255.67㎡		0㎡		0㎡		130,255.67㎡		
	そ の 他		24,780.05㎡		0㎡		0㎡		24,780.05㎡		
	合 計		155,035.72㎡		0㎡		0㎡		155,035.72㎡		
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
			16,640.72㎡ (15,220.89㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		16,640.72㎡ (15,220.89㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		45室		教 員 研 究 室		58室		大学全体

図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点		標本 点		学部単位での 特定不能なため、大学全体の数
	情報デザイン学部 情報デザイン学科		112,729 [19,235] (110,719 [19,235])		0 [0] (0 [0])		178 [19] (178 [19])		5 [5] (5 [5])		0 (0)		0 (0)		
	計		112,729 [19,235] (110719 [19,235])		0 [0] (0 [0])		178 [19] (178 [19])		5 [5] (5 [5])		0 (0)		0 (0)		
スポーツ施設等			スポーツ施設				講堂				厚生補導施設				大学全体
			7,943.51㎡				0㎡				3,784.76㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		教員1人当り研究費等		430千円	430千円	430千円	430千円	— 千円	— 千円						
		共同研究費等		5,600千円	5,600千円	5,600千円	5,600千円	— 千円	— 千円						
		図 書 購 入 費	5,710千円	2,145千円	2,145千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円						
		設 備 購 入 費	89,249千円	88,540千円	29,226千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円						
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次							
			1,380千円	1,160千円	1,160千円	1,160千円	— 千円	— 千円							
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金、雑収入等											
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		平成国際大学												
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地					
	法学部 法学科		年	人	年次 人	人	学士（法学）	0.74	平成19 年度	埼玉県加須市水深 大立野2000番地					
	スポーツ健康学部 スポーツ健康学科		4	200	—	800	学士（スポーツ健康 学）	1.07	平成29 年度						
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		平成国際大学大学院												
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地					
	法学研究科		年	人	年次 人	人	修士（法学）	0.36	平成12 年度	埼玉県加須市水深 大立野2000番地					
附属施設の概要			平成国際大学附属サトエ美術館、日本語別科												

学校法人佐藤栄学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員
平成国際大学			
法学部			
法学科	200	-	800
スポーツ健康学部			
スポーツ健康学科	100	-	400
日本語別科			
1年課程	60	-	60
1年6カ月課程	60	-	120
2年課程	60	-	120
計	480	-	1,500
平成国際大学大学院			
法学研究科			
法律学専攻	10	-	20
政治・行政専攻	5	-	10
計	15	-	30
埼玉栄高等学校			
普通科	560	-	1,680
保健体育科	160	-	480
計	720	-	2,160
栄東高等学校			
普通科	400	-	1,200
計	400	-	1,200
花咲徳栄高等学校			
普通科	440	-	1,320
食育実践科	80	-	240
計	520	-	1,560
栄北高等学校			
普通科	320	-	960
計	320	-	960
埼玉栄中学校	120	-	360
計	120	-	360
栄東中学校	240	-	720
計	240	-	720
さとえ学園小学校	72	-	432
計	72	-	432
専門学校埼玉自動車大学校			
一級自動車整備科	80	-	360
2年制一級自動車整備科	5	-	10
二級自動車整備科	110	-	220
総合車体整備科	10	-	20
カスタムボディ科	20	-	20
自動車車体整備科	30	-	30
国際自動車整備科	20	-	60
計	275	-	720

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
平成国際大学				
法学部				
法学科	100	-	400	収容定員変更(△400)
スポーツ健康学部				
スポーツ健康学科	100	-	400	
情報デザイン学部				学部の設置(認可申請)
情報デザイン学科	100	-	400	
日本語別科				
1年課程	60	-	60	
1年6カ月課程	60	-	120	
2年課程	60	-	120	
計	480	-	1,500	
平成国際大学大学院				
法学研究科				
法律学専攻	10	-	20	
政治・行政専攻	5	-	10	
計	15	-	30	
埼玉栄高等学校				
普通科	560	-	1,680	
保健体育科	160	-	480	
計	720	-	2,160	
栄東高等学校				
普通科	400	-	1,200	
計	400	-	1,200	
花咲徳栄高等学校				
普通科	440	-	1,320	
食育実践科	80	-	240	
計	520	-	1,560	
栄北高等学校				
普通科	320	-	960	
計	320	-	960	
埼玉栄中学校	120	-	360	
計	120	-	360	
栄東中学校	240	-	720	
計	240	-	720	
さとえ学園小学校	72	-	432	
計	72	-	432	
専門学校埼玉自動車大学校				
一級自動車整備科	80	-	360	
2年制一級自動車整備科	5	-	10	
二級自動車整備科	110	-	220	
総合車体整備科	10	-	20	
カスタムボディ科	20	-	20	
自動車車体整備科	30	-	30	
国際自動車整備科	20	-	60	
計	275	-	720	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(情報デザイン学部情報デザイン学科等)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員以外の教員	
共通科目	導入科目群	基礎演習ⅠA	1前		1			○			2	3	1			メディア メディア
		基礎演習ⅠB	1後		1			○			2	2	1			
		情報リテラシー基礎	1前		1			○							1	
		情報リテラシー応用	1後		1			○							1	
		小計（4科目）	—	—	4	0	0	—		0	2	3	1	0	1	
	言語科目群	英語総合Ⅰ	1前		1			○							1	メディア メディア メディア メディア
		英語総合Ⅱ	1後		1			○							1	
		英語総合Ⅲ	2前		1			○							1	
		英語総合Ⅳ	2後		1			○							1	
		コミュニケーション英語Ⅰ	1前		1			○							1	
		コミュニケーション英語Ⅱ	1後		1			○							1	
		コミュニケーション英語Ⅲ	2前		1			○							1	
		コミュニケーション英語Ⅳ	2後		1			○							1	
		日本語Ⅰ	1前			1		○		1					1	
		日本語Ⅱ	1後			1		○		1					1	
		日本語Ⅲ	2前			1		○		1					1	
		日本語Ⅳ	2後			1		○		1					1	
		日本事情Ⅰ	1後		2		○			1						
		日本事情Ⅱ	2前		2		○			1						
		小計（14科目）	—	—	8	8	0	—		1	0	0	0	0	3	
	教養科目群	自然科学概論Ⅰ	1・2前			2		○							1	メディア
		自然科学概論Ⅱ	1・2後			2		○							1	
		環境学	1・2前			2		○		1						
		健康とスポーツ	1・2前			2			○						1	
		文学Ⅰ	1・2前			2		○							1	
		文学Ⅱ	1・2前			2		○							1	
		芸術Ⅰ	1・2後			2		○							1	
		芸術Ⅱ	1・2後			2		○							1	
		心理学	1・2前			2		○							1	
		思想史Ⅰ	1・2前			2		○							1	
		思想史Ⅱ	1・2後			2		○							1	
		日本語表現論Ⅰ	1・2前			2		○							1	
		日本語表現論Ⅱ	1・2後			2		○							1	
		日本史概説	1・2前			2		○							1	
		西洋史概説	1・2後			2		○							1	
		東洋史概説	1・2後			2		○							1	
		歴史Ⅰ	1・2後			2		○							1	
		歴史Ⅱ	1・2前			2		○							1	
		地理学	1・2前			2		○							1	
		地誌	1・2後			2		○							1	
		哲学概論	1・2前			2		○							1	
		倫理学概論	1・2後			2		○							1	
		社会学概論	1・2後			2		○							1	
		日本国憲法	1・2前			2		○							1	
		生命と法	1・2後			2		○							1	
		我々の時代の理解	1・2後			2		○		1						
		小計（26科目）	—	—	0	52	0	—		2	0	0	0	0	16	

科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） の 教 員	
専門科目	基盤科目	専門基礎科目群	データサイエンス入門	1後	○	1				○		1						メディア
			情報倫理	1後	○	2			○				1					メディア
			情報セキュリティ	2前	○	2			○				1					
			情報ネットワーク	2前	○	2			○				1					
			情報と職業	2後		2		○				1						
			情報と心理	1後		2		○							1			
			科学技術社会論	2前		2		○							1			
			デジタルアーカイブ	2後		2		○							1			
		小計（8科目）	—	—	7	8	0	—			1	0	1	0	0	3		
	社会調査科目群	社会調査Ⅰ	1前			2		○				1						オムニバス
		社会調査Ⅱ	1後		2		○				1							
		社会調査実習Ⅰ	2前		1				○		1							
		社会調査実習Ⅱ	2後		1				○		1							
		社会調査データ分析実習	3通		2				○		2				1			
	小計（5科目）	—	—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	1			
	基幹科目	情報数理科目群	情報数理入門	1前	○	2		○							1			オムニバス、一部共同
			情報数理入門演習	1前	○	1			○				1					
			情報数理基礎Ⅰ	1後	○	2		○				1						
			情報数理基礎演習	1後	○	1			○					1				
			情報数理基礎Ⅱ	2前		2		○				1						
情報数理応用			2後		2		○				2	1						
小計（6科目）			—	—	6	4	0	—			0	0	2	1	0	0		
統計科目群		統計学入門	1前	○	2		○				1						オムニバス	
		統計学基礎（多変量データ解析を含）	1後	○	2		○				1							
		確率論	2後		2		○				1			1				
		ベイズ統計学	2後		2		○				1						オムニバス	
		比較統計分析	2前		2		○				2							
		小計（5科目）	—	—	4	6	0	—			2	0	0	1	0	0		
プログラミング科目群		プログラミング入門	1後	○	2		○							1			※演習，共同	
		アルゴリズムとデータ構造	1後	○	2		○							1				
		プログラミングⅠ	2前		2		○					1		1				
		プログラミングⅡ	2後		2		○					1						
		情報インストラクター実習	3前		1					○		1		1			共同 共同	
		Webプログラミング	3後		1			○				1		1				
		小計（6科目）	—	—	4	6	0	—			0	0	1	1	0	0		
機械学習科目群	機械学習入門	1後	○	2		○						1	1			※演習，共同		
	機械学習基礎	2前		2		○									1			
	機械学習応用実習	2後		1					○		2				1			
	AI概論	2前	○	2		○					2					共同 ※演習，共同 共同		
	AI応用演習	2後		1			○				2		1					
	大規模データベース論	3前		2		○					1				2			
	小計（6科目）	—	—	4	6	0	—			0	0	2	1	0	2			
重点分野科目	農業	農業生産学	2後	○		2		○				1						
		農業生物学	3前	○		2		○				1						
		農業環境資源学	3後	○		2		○				1						
		森林生物学	2後	○		2		○										
		森林環境学	3前	○		2		○										
		森林資源論	3後	○		2		○										
		小計（6科目）	—	—	0	12	0	—			1	1	0	0	0	0		
	環境	環境学基礎	2後	○		2		○				1						
		環境学応用Ⅰ（国際環境法）	3前	○		2		○				1						
		環境学応用Ⅱ（地球温暖化）	3前	○		2		○										
		環境学応用Ⅲ（環境経済学）	3後	○		2		○								1		
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0	1		
	スポーツ・健康情報	スポーツ・健康情報概論	2後	○		2		○						1				
		スポーツパフォーマンス分析論	3前	○		2		○						1				
		スポーツコーチングとデータ活用	3後	○		2		○						1				
QOL統計学		3前	○		2		○				1							
小計（4科目）		—	—	0	8	0	—			1	0	1	0	0	0			

重点分野科目区分			授業科目の名称	配当 年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員		
	経営・マーケティング	ビジネス・ベーシック	2後	○		2		○			1							オムニバス	
		マネジメント論	3前	○		2		○									1		
		アカウンティング論	3前	○		2		○			1								
		マーケティング論	3後	○		2		○									1		
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0	2			
		文化情報	文献アーカイブ概論	2後	○		2		○			1							
			食と文化	3前	○		2		○			1							
			ことばと文化	3前	○		2		○			1							
			情報と文化	3後	○		2		○			1							
			小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0	0		
	国際関係	アジア理解Ⅰ	2後	○		2		○			1								
		アジア理解Ⅱ	3前	○		2		○			1								
		開発×DX	3前	○		2		○			2								
		グローバル・コミュニケーション論	3後	○		2		○			1								
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	0			
	実践教育科目	社会実装実習（インターンシップ）事前学習	2後	○	1				○		1	1						共同集中	
		社会実装実習（インターンシップ）	3通	○	16					○	1	1							
		情報デザイン演習	3通	○	4				○		6	1							
		卒業プロジェクト	4通	○	4				○		8	1	2	1					
		小計（4科目）	—	—	25	0	0	—			8	1	2	1	0	0			
教職課程	教育基礎論	1前				2	○									1	オムニバス 集中 オムニバス		
	教職論	1前				2	○									1			
	教育制度論	1後				2	○									1			
	教育心理学	2前				2	○									1			
	情報科指導法Ⅰ	3前				2	○									1			
	情報科指導法Ⅱ	3後				2	○									1			
	特別支援教育入門	2後				1	○									1			
	教育課程論	2前				1	○									1			
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1後				2	○									1			
	教育の方法と技術	2後				2	○									1			
	生徒指導論・進路指導	2前				2	○									1			
	教育相談	1後				2	○									1			
	教育実習事前及び事後指導	3・4 通				1	○									5			
	教育実習Ⅱ	4前				2			○							1			
	教職実践演習（中・高）	4後				2		○								5			
	小計（15科目）	—	—	0	0	27	—			0	0	0	0	0	10				
合計（125科目）			—	—	62	150	27	—			9	2	4	1	0	37			
学位又は称号		学士（情報デザイン学）			学位又は学科の分野				工学										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等										
卒業要件 情報デザイン学部情報デザイン学科の卒業必要単位数は124単位とする。 共通科目30単位；導入科目群（必修科目4単位）、言語科目群（必修科目8単位）、教養科目群（選択必修科目18単位） 専門科目51単位；基盤科目（必修科目7単位・選択必修科目8単位）、基幹科目（必修科目18単位・選択必修科目10単位）、重点分野科目（選択科目8単位※ただし、同一分野から6単位以上修得すること） 実践教育科目25単位（必須科目25単位） 上記の他、すべての選択科目の中から自由に選択する単位18単位以上 履修方法 カリキュラムマップ・履修モデル等により履修指導を行う。 履修単位数の上限年間48単位（学期毎の履修単位数の上限は設定しない）。ただし、教職課程科目を履修する場合はこの限りではない。 学則第49条で定める外国人留学生は、「英語総合」、「コミュニケーション英語」に代えて、「日本語」、「日本事情」を履修することができる。									1 学年の学期区分				2期						
									1 学期の授業期間				15週						
									1 時限の授業の標準時間				90分						

授 業 科 目 の 概 要				
（情報デザイン学部情報デザイン学科等）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授 業科目	講義等の内容	備考
共通 科目	導入 科目群	基礎演習ⅠA	大学の授業の受け方、課題のまとめ方、施設の利用方法を習得し、学修の全体像を把握する。合わせて学内外の活動にも積極的に関わり、豊かな学生生活を送るための技法、スキルについて学ぶとともに市民生活に欠かせない規範を身につける。また、グループワークなどを通して他者と関わるためのコミュニケーション能力を培っていく。これらを通して、4年間の学生生活をイメージし、卒業後につながる各自の目標、目的を明確にしてキャリア意識を高めていく。	
		基礎演習ⅠB	この授業では、情報デザイン学科における各領域（専門基礎）「社会調査」「情報数理」「統計学」「プログラミング」「機械学習」「農業」「環境」「スポーツ・健康情報」「経営・マーケティング」「文化情報」「国際関係」「社会実装実習（インターンシップ）」での学びへの理解、教員や他の学生との対話、演習を通じて、情報デザインの各領域における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりと共に卒業後のキャリアについて考えることを目的とする。	
		情報リテラシー基礎	本授業では、これからの大学での学びや現代社会で生活するうえで必要不可欠な、情報リテラシーとコミュニケーションスキルの基本について学修することを目的とする。インターネットの仕組みや情報サービスの特徴を理解して、それらを的確に活用しながら情報の収集、整理を行い、SNS、文章作成ソフトを用いて情報発信する方法を学び、他者とのコミュニケーションや問題を解決する力を養う。	メディア
		情報リテラシー応用	本授業では情報リテラシー基礎から引き続き、これからの大学での学びや現代社会で生活するうえで必要不可欠な、情報リテラシーとコミュニケーションスキルの基本について学修することを目的とする。ICTを活用したプレゼンテーション、情報セキュリティとデジタル技術の基礎、Web技術の基礎とサイト制作、表計算アプリを用いたデータ分析、コンピュータによる統計分析を通じた問題解決、AI / ICTを基盤とした情報社会と人間生活の関係などを学ぶ。	メディア
	言語 科目群	英語総合Ⅰ	ReadingとWritingを中心とし、テキストの予習と講義受講、その後の演習の3つの活動によって確実に知識を増やし、技能を高めていきます。英文の正しい読み方に焦点をあてた授業と定型構文を用いた英語表現に焦点をあてた授業を進めていきます。高校までに学習した内容の復習から始めて、実践的な内容へと進んでいきます。授業の予習としてテキストの問題演習と、オンデマンド講義の受講、復習としてリフレクションシートの記入とチェックテスト受験が必須になっています。	メディア
		英語総合Ⅱ	ReadingとWritingを中心とし、テキストの予習と講義受講、その後の演習の3つの活動によって確実に知識を増やしていきます。英語総合Ⅰでの学習内容を基礎として、情報分野を題材とした英文を読んでいきます。また、授業の予習としてテキストの問題演習とオンデマンド講義の受講、復習としてリフレクションシートの記入とチェックテスト受験が必須になっています。授業のまとめとして英文の記事を要約してプレゼンテーション動画を作成してもらいます。	メディア

英語総合Ⅲ		1年次までの学習を基盤として、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC (L/R)、実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握やテスト対策の学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、実践的な英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間を割いてください。	メディア
英語総合Ⅳ		英語総合Ⅲに引き続き、これまでの学習を基盤として、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC (L/R)、実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握やテスト対策の学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、実践的な英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間を割いてください。	メディア
コミュニケーション英語Ⅰ		ListeningとSpeakingを中心とし、基本的な英語表現による音声コミュニケーションスキルを習得します。英語と日本語の違いの理解や英語によるコミュニケーションにおける言語的な側面に加えて、文化的な側面についても学びを深めていきます。教養を備えた社会人としての英語スキル獲得を目指します。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合1」と合わせて、実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
コミュニケーション英語Ⅱ		コミュニケーション英語Ⅰに引き続き、ListeningとSpeakingを中心とし、基本的な英語表現による音声コミュニケーションスキルを習得します。英語と日本語の違いの理解や英語によるコミュニケーションにおける言語的な側面に加えて、文化的な側面についても学びを深めていきます。教養を備えた社会人としての英語スキル獲得を目指します。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合Ⅱ」と合わせて、実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
コミュニケーション英語Ⅲ		コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱでの学習内容をさらに発展させて、英語による音声コミュニケーションスキルを習得します。Listeningに焦点をあてて授業を進めます。TOEICなどの試験問題への対応などを学習していきます。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合Ⅲ」と合わせて実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
コミュニケーション英語Ⅳ		コミュニケーション英語Ⅲに引き続き、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱでの学習内容をさらに発展させて、英語による音声コミュニケーションスキルを習得します。プレゼンテーションセッションに向けた準備を通して、「人に伝える英語」のスキルをさらに向上させていきます。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合Ⅳ」と合わせて実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
日本語Ⅰ		知識理解領域においては、日本の大学で日本語での授業を受講し理解できる知識及び、大学生活だけでなく日本社会のマナーに関する知識を説明する。技能領域においては、日本の大学で日本語での授業に参加をして、自分の意見を先生や友人に日本語で正確に説明できる技能を身につける。態度領域においては、先生や日本人学生と、勉強の場でもプライベートでも日本語で正確にコミュニケーションを取れることに加えて、日本のマナーを学生生活においても日本社会での実生活でも実践できる態度を習得する。	

日本語Ⅱ	人文系、社会科学系、自然科学系の基本的な教養科目の短い動画の講義を見て、大学の授業の特徴を説明する。知識理解領域においては、大学の講義とはどのようなものかを理解し、講義を聞く練習、ノートを取る練習を通じて、大学で行われる講義を理解する知識を養成する。技能領域においては、日本の大学で日本語での授業に参加をして、自分の意見を先生や友人に日本語で正確に説明できる技能を身につける。態度領域においては、大学の授業において、単に聞いているだけの受け身の態度ではなく、先生や日本人学生と日本語で正確にコミュニケーションを取り、主体的に勉強できる態度を習得する。授業の構成は下記の通り。 ●講義の紹介・講義する先生の紹介 その講義がどのような分野の内容かを紹介する。 ↓ ●A:講義を聞く前に ウォーミングアップの問題を考える。 ↓ ●B:講義を聞く 資料を見たり、ノートを取ったりしながら、講義を聞く(20分程度) ↓ ●C:内容確認問題 内容が理解できているか確認する。 ↓ ●D:発展学習 テーマについて、更に考えたり、調べたりする。 ↓ ●先生からのメッセージ 講師から学習者へ、より深い学習のための助言や参考文献などを紹介する。	
日本語Ⅲ	本授業は大学生活に必要な「アカデミック・ジャパニーズ」を、タスクを通じて総合的な日本語力を養う。知識理解領域においては、大学の授業において、ノートの取り方、文献や資料の読解の仕方、レポート作成などの授業に必要なスキルを習得する。技能領域においては、大学の職員、先生と日本語で適切にやり取りできる。態度領域においては、ゼミでの発言、サークル活動、スピーチ、討論、公開討議などの発信型スキルまで、大学のさまざまな場面に対応できる総合的な日本語力と態度が身につく。	
日本語Ⅳ	知識理解領域においては、日本のニュースを日本語で理解できるようこれまでの日本語学習で習得した日本語を踏まえて説明し、それを通じて日本社会の様々な事情に関する知識も説明する。技能領域においては、日本のニュースを日本語で理解することで、日本社会の状況を、大学で先生や日本人学生と議論が実施できるようになるよう議論の仕方を身につける。態度領域においては、日本社会のニュースを見ることで、日本の状況に関して先生や日本人学生との議論に参加できる実践力を習得する。	
日本事情Ⅰ	一つのトピックを二週連続で扱う。知識理解領域においては、日本語の読解を通じて日本社会の状況を概説することで、留学生は現代日本の社会状況や日本の文化をより深く理解することができることに加えて日本語の読解力を習得する。技能領域においては、日本語で発信し、議論できる総合的な日本語力を身につける。態度領域においては、大学の授業やゼミなどで、先生や日本人学生の発言を正確に理解し、よりアカデミックな議論に参加することで、より主体的に大学生活や日本での生活に参加できるような態度を身につける。	
日本事情Ⅱ	日本語Ⅲの発展科目である。授業の進め方は日本事情Ⅰと同じである。一つのトピックを二週連続で扱う。知識理解領域においては、日本語の読解を通じて日本社会の状況を概説することで、留学生は現代日本の社会状況や日本の文化をより深く理解することができることに加えて日本語の読解力を習得する。技能領域においては、日本語で発信し、議論できる総合的な日本語力を身につける。態度領域においては、大学の授業やゼミなどで、先生や日本人学生の発言を正確に理解し、よりアカデミックな議論に参加することで、より主体的に大学生活や日本での生活に参加できるような態度を身につける。	

教養科目群	自然科学概論Ⅰ		現代の我々の生活は科学技術によって支えられている。本科目では自然科学（物理学、地学）について概説し、社会で活躍するために必須の自然科学（物理学、地学）に関する基礎知識の理解をテーマとする。 自然科学（物理学、地学）について学び、社会で活躍するために必須の自然科学（物理学、地学）に関する基礎知識を理解し運用できるようになる。 自然科学の中の物理学と地学の分野について全体像を概説する。社会生活で必須の科学的な基礎知識を身につけ、それらを活用できるようになることを目標とする。講義と演習を組み合わせつつ、物体の運動、力の種類とつり合い、電気回路理論、熱学、地球の構造、太陽系の仕組み、気象現象などを学ぶ。	
	自然科学概論Ⅱ		日常に起こる自然現象について平易に解説し、教員として身につけるべき一般教養としての科学的な知識を習得させるとともに、自然現象に対する科学的な見方、考え方を身につけさせることを目標とする。 主に「生物分野」と「化学分野」における自然現象について、科学の歴史にふれながら定義や定理などを平易に解説し、それらの成果を活用して、自然現象に対する科学的なものの見方、考え方を身につけさせる。	
	環境学		環境学の入門として、様々な角度からそれぞれの環境分野における課題を理解し、解決策について考察する。具体的には、①大気や海洋等の循環、再生可能エネルギー等の各種エネルギー、循環型社会。②地球温暖化のメカニズム・影響・その対策。③大気・土壌・海洋の汚染問題。④森林減少と砂漠化・生物多様性の保全。⑤都市化の進行に伴う廃棄物処理・都市交通の問題。⑥持続可能な開発(SDGs)・地球環境政策・企業の環境行動について学ぶ。	
	健康とスポーツ		スポーツ科学の観点から教養としての健康やスポーツ・身体運動に関する基礎知識を理解する。 生涯を通じてスポーツを実践するための基礎的な知識を習得する。 生涯を通じてスポーツや運動を実践するための基礎的な知識とその方法を教授し、学問的な思考態度を養うことをねらいとする。さらに、現代社会における健康問題や国や地域が取り組むスポーツ事業についてふれる。	
	文学Ⅰ		日本文学に対する理解を深めるのはもちろん、作品の独自性や時代性を理解しながら思考力や想像力を修得できるようになること。また、価値観を追体験し、授業を通して学んだ事柄を今後の読書行為に活かせるようになること。 各作品の時代背景をおさえながら作品世界を分析していくと同時に、通奏低音のごとく流れる価値観を追体験できるようにしたい。古代の人々と現代の人々とが、言葉や文法は違えど決して異なるものではなく、ひとつなぎのものとしてその精神性が受け継がれていることに気づいてもらいたい。作品を読解し、分析する方法など今後の読書行為への切り口も講義する。 授業の性質上、いわゆる「古典文学」を中心に扱うことになる。といっても、今まで学んできたような文法や古語の意味、現代語訳、試験のために覚えるなどといった科目教科として学校教育的に染め上げられた「古典」の授業をするつもりはない。あくまでも「文学としての古典」である。そこに描かれたさまざまな場面を読むことで、日本文学、さらには日本文化として息づく日本古来の精神性を学んでいく。	
	文学Ⅱ		文学に触れることは、生きることを意味を問うことである。しかし、その答えは読者自身が考え、見つけるしかないし、答えが見つかる保証もない。それでも、一つの作品に向き合うことは、自分という存在についての理解を深めてくれるだろう。このクラスでは、アメリカ文学の作品を実際に読むことを通じて、1) 文学を読むときに何に注目すべきかという方法について、2) アメリカ文学および文化について、の2種類の知識の獲得を目指す。 毎年、1つのアメリカ文学の作品を指定して、実際に読みながら、アメリカ文学全般および個々の作家・作品の特徴を考察する。	

芸術Ⅰ		美術作品を通して、時代や社会の動静を考察し、自らの見識・意見・感性を養う。 大学附属の美術館施設にて全15回の講義を行う予定とし、同施設にて展示されているオリジナル作品の鑑賞を通じて、美術史的な背景、芸術家たちのプロフィール、物理的な作品としての技法や素材などを解説する講義が中心となります。また、同施設を最大限に活用し、美術作品展示の演出や意図などに関する講義も予定しています。日常とは異なる空間にて講義を行い、授業内にて意見や感想等を発表する機会を多く設け、学生の感受性や表現力を養うことを目的とした講義となります。	
芸術Ⅱ		芸術（主に美術）を通して、時代や社会の動静を考察し、自らの見識や意見を養う。 現代社会に於ける多様な表現や価値観の現況を捉え、芸術とは何かを考え、人間と芸術の関係を考察するとともに、自らの価値観や想像力を養うことを目的とします。現代のアートシーン、美術概念の成立、美術教育の歴史など、日本に於ける美術史に触れることで、日本近代史における美術の存在意義を歴史的側面より捉え、一層に芸術を理解することも目的としています。	
心理学		人は誰でも自分の中に自分なりの「心理学」を持っている。 たとえば、この人はどんな人なのかという「パーソナリティ」、初対面の人とどうやり取りをするかという「第一印象」、試験に失敗したのはなぜかという「帰属理論」、どうして騙されてしまったのかという「説得的コミュニケーション」などがあげられるだろう。 このように人は、これまで学習や体験の積み重ねからさまざまな心理学的知識を身に付けている。これらをアカデミックに説明できるようになることを目的とする。 ①生活上の諸問題を心理学的に説明できるようになるー心理学の基礎の習得と、②心理学（主に精神分析やカウンセリング）の視点から自分のこころを理解する、すなわち「自己理解」を目指す。 主に①社会心理学、②心理療法やカウンセリングの視点から、自己理解すること、ひいては他者を理解することを目指す。 このため、条件付けに始まる行動主義など心理学の一般的な知識に加え、精神分析、心理療法、精神の病気について、認知（目や耳など五感を通した「物事」の受け止め方）療法などについてを学ぶ。	
思想史Ⅰ		日本の国体や日本人の国民性にみられる特殊性（日本固有のもの）と普遍性（諸外国と共通する点）とを、古代・中世・近世・近代・現代日本の思想を概説することにより、履修者に理解してもらう。 第1に、日本の国体や日本人の国民性にみられる特殊性（日本固有のもの）と普遍性（諸外国と共通する点）とを理解する。 第2に、古代・中世・近世・近代・現代日本の思想を概説することにより、各時代における特殊性と普遍性とを理解する。 主として、古代から近世までは日本の特殊性を、近代以降は特殊性と普遍性とを履修者が理解できるように説明する。	

思想史Ⅱ		本講義は、古代ギリシャの思想とキリスト教の思想、そして近代ヨーロッパの自由主義と社会主義、さらには現代の思想状況について理解することを目的とする。古代ギリシャ思想については、人間の生の価値をめぐるソクラテス以前の思想のソクラテスによる転換、そしてプラトンとアリストテレスの人間観の違いを学ぶ。その後、キリスト教の人間観を知り、その上で、人間の自由について考察する。また、比較により理解を深めるため仏教と儒教の人間観と中華思想についても触れる。さらに人間の自由について、近代ヨーロッパにおける思想的展開と、現代世界における思想状況を講義する。なお、公務員試験に頻出の思想について、基礎的理解を得られるように配慮する。 ・古代ギリシャの思想とキリスト教の思想について、西洋思想の基礎として理解する。 ・仏教とキリスト教、儒教の違いについて説明できるようにする。 ・古典的な思想の自由についての考え方および人間観の違いを知り、今日の多様な価値観の背景を理解する。	
日本語表現論Ⅰ		日本語はさまざまな言葉に変容する。時には敬語を用いて相手を敬いながら、時には他者を説得させるための道具として言葉を用いながら、他者とのコミュニケーションをとっている。我々は自らの考えを言葉に託し、表現「する」ことを無視して自らの国語力を涵養することはできないのである。同時に、1度でも自らの思考の外へと表現「する」ことで、言葉は自らの手に負えない形で伝播していく危険性を孕むものである。本講義では主に3つの視点から日本語表現についてアプローチしていく。1点目「手紙とメール」では、相手に伝わる方法、失礼のないマナーや作法をふまえた書き方を敬語の使い方とともに学ぶ。2点目「自己PR」では、自らを自分の言葉で表現し、相手に伝える方法を学ぶ。3点目「レポートの書き方」では、より実践的なものとして履修者自身が発する「問い」に対して「答え」を導く練習、必ずしも好意的ではない他者に対して自分の意見を説得させる方法やテクニックを伝授する。上記の3点を中心に、日本語の楽しさと難しさを理解しながら表現「する」ことの意味を問い直していきたい。	
日本語表現論Ⅱ		日本語はさまざまな言葉に変容する。言葉は歴史の中で「文字」という記号のみならず、「絵」をはじめ、時代の変遷などを通じて様々な姿に表現「された」側面を持つ。言葉が表現「された」時、それを我々は正確に理解することができのだろうか。本講義では、さまざまに表現「された」メディアに目を配り、日本語の表現について今一度向き合っていきたい。他者によって表現「された」言葉たちを無視して自らの国語力を涵養することはできないのである。同時に、表現「された」言葉は時として本来の意味を離れ、受け手によって意味が歪曲される危険性を孕むものである。本講義では、表現「された」メディアに触れることで日本語の楽しさと難しさを理解しながら、表現「された」ことの意味を問い直していきたい。	
日本史概説		「わが国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解」（学習指導要領）し、歴史分野担当教員としての資質と能力の獲得を目指すことである。授業の到達目標は、この科目が教職課程の教科必修科目となっていてところから、受講生が「学習指導要領」に基づき、教育現場で授業を十分に展開できるような歴史の知識を理解することにある。そのため、①諸資料から歴史に関する様々な情報を処理し、②歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察し、併せて③歴史の人物や文化遺産を理解できるようになることを目指したい。法令等により一般的包括的な内容を含むものとされる科目の特性上、日本史全体を概観することとするが、授業時間の制約もあるので、「学習指導要領」を踏まえて、古代、中世、近世、近代、現代の各時代を代表するテーマに絞って説明する。ここでは、受講生が学校の教壇に立ったときに役立つような授業が展開できるよう、配慮して進めたい。	

西洋史概説		西ヨーロッパ地域を中心に古代から現代までの西洋の歴史を概観します。西洋の歴史は、オリエントやギリシアの古代文明に始まり、西ローマ帝国の滅亡でもって、時代が古代から中世へ移行します。中世の時代に、キリスト教化されたヨーロッパ社会が誕生し、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペインといった国々が形成され始めます。ルネサンス、宗教改革を経て、時代は近代、現代へと進んでいき、そのような歴史の流れを、ヨーロッパの国々の形成過程を基軸に据えて学んでいきます。 古代から現代までの西洋の歴史の大まかな流れを理解する。 ヨーロッパの諸国家が形成された過程を理解する。	
東洋史概説		古代から現代に至る東洋史を中国の国家の範囲と統治体制、社会の変化を中心に概観し、周辺国との関係を含めて基礎的な理解を得る。中国の王朝交代の方法及び国家の統治範囲の変遷と、西アジア、南アジアとの交流、相互の影響について検討し、日中関係の推移についても理解する。また、東アジア、東南アジア諸国の歴史についても基礎的な理解を得る。 ・古代から現代に至る東洋史の流れを中国を中心に理解し、説明できる。 ・中国の国家統治体制の変化と、周辺国との関係の変化を理解し説明できる。 ・中国の王朝交代の態様を歴史的に理解し、中国や東洋の現状について歴史的背景から説明できる。	
歴史Ⅰ		因果関係で日本の立憲政治確立の流れを把握。日本人の歴史的教養とは何か。立憲国家としての日本がどのように確立されたのかを把握し、歴史的視点で政治を把握する能力を身につける。 日本の民主政治の発展に関する知識とその流れを把握しておくことは、学生として社会人として最低限身につけておかねばならない教養である。本講義では、近代国家としての日本がスタートしてから本格的政党政治が樹立されるに至る近代日本史の基礎的知識と流れを学ぶことを目的にする。近代国家としての出発、日清・日露、第一次大戦と日本、政党政治の展開などを中心に歴史の因果関係を理解し、歴史に興味をもつことを狙いとする。	
歴史Ⅱ		東アジアの近現代史、中でも香港と台湾の歴史について講義する。香港は1842年から1997年の150年間イギリスの植民地であり、台湾は1895年から1945年の50年間日本の領土であった。日本およびイギリス統治下の香港と台湾の歴史を学ぶことで、イギリスと日本による統治の相違を知るとともに、その違いが植民地から離脱して以後の政治社会に与えた影響についても検討する。中国返還後の香港、中華民国支配下の台湾の歴史についても講義し、現在の東アジア情勢について理解できるようにする。 日本による台湾領有の経過と、日本統治による台湾近代化の諸相を知ることで、欧米列強に負けない近代国家建設を目指した日本と日本人の姿、これに対応した台湾の人びとの歴史を理解する。イギリスによる香港支配と日本の台湾支配を対比することで、日本と欧米の政治文化の違いが説明できるようになる。香港と台湾の近代史から現状までを知ること、今日の東アジアのうち日本との関係の深い地域の実情と課題について理解し	
地理学		範疇で興隆をもち、地域を構成する自然や文化および社会や経済などの様々な要素から総合的に検討して、地域性を読み解く知識および技能、見方・考え方を身につける。 地理の学習について、地名や地形、産業、特産物などを覚える暗記科目というイメージを持っているケースが多いのではないだろうか。地理学は、「地表の自然・人文にわたる諸現象を、環境・地域・空間などの概念に基づいて解明しようとする学問」である。つまり、地表のあらゆるものや事象について、「それはどこにあるのだろうか?」「なぜそこにあるのだろうか?」「その場所では他のものや事象とどういう関係になっているのだろうか?」といった事象を学ぶ分野である。本講義では、地理学を初めて学ぶ学生のために、地理学の基本的な視点や知識および技能、見方・考え方について講義を進めていく。	

地誌		地誌学は、地理学の重要な一分野であり、地形や気候、あるいは人口や農業など1つの特定のテーマを掘り下げて地域性を読み解く分野である。そこで、地誌学的な視点で地域性を読み解く見方・考え方を身につける。 日本や世界の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの地域の結びつきの視点から地域の特色をとらえていく。そして、九州地方から北海道地方の7地方区分の自然・産業や生活・風土などについて動態的にとらえ、日本および各地方の地域的特色や世界との比較等により、地誌学的な視点で地域性を読み解く知識および技能、見方・考え方を身につけることができるように講義を進めていく。	
哲学概論		・哲学史の流れに沿って哲学の基本問題を順次講ずる。 ・哲学の基本問題について理解を深め、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。 ・考えることの意義を学び、主体的な立場から意見を表明できるようになることも目標に据える。 本講義では、近代以降の哲学史の流れを丹念にたどっていく。そして、主要な哲学者たちの実際の文章にあたりつつ、哲学の基礎知識を一つ一つ確認しながら、哲学者たちが何を考えていたのかをなるべくわかりやすく解説していきたいと思う。	
倫理学概論		・倫理思想史の流れに沿って倫理学の基本問題を順次講ずる。 ・倫理学の基本問題について理解を深め、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。 ・考えることの意義を学び、主体的な立場から意見を表明できるようになることも目標に据える。 本講義では、古代ギリシャから現代に至るまでの倫理思想の系譜を順次たどっていく。そして、倫理学を学ぶうえで必要なサンプルを数多く提示するなかで、その基礎知識を一つ一つ確認しながら、倫理において問題となっている事柄をなるべくわかりやすく解説していくことにする。	
社会学概論		社会学の扱う諸分野の基礎を学ぶ ・社会学の主要テーマがどのようなものか理解できる ・社会学諸分野の基礎理論を理解し、現代社会の構造や現状の課題、問題について考察できるようになる 本講義では、社会学の扱う主要なテーマ・分野について、その基礎を学びます。各テーマ・分野の現代社会における状況を概観し、社会学においてこれまで確立されてきた理論を参照しながら、現代社会の諸問題について考えていきます。	
日本国憲法		この講義では、初めて憲法を学ぶ者を対象にして、憲法への入門として講義を行う。 近代立憲主義の憲法の考え方（原理）について、基本的な理解を得ることを目標に、日本国憲法の全体についての一通りの基礎知識を学ぶ。 教職課程履修者を対象に、中学・高校における憲法教育のあり方についての基礎知識も修得できるようにする。 日本国憲法について、「憲法総論」、「人権総論」、「人権各論」、「統治総論」、「統治各論」にわたって講義する。これにより、近代憲法の原理、日本国憲法の三大原理、人権保障のあり方、権力分立制、統治制度についての基礎的内容を理解できるよう分かりやすく説明する。	

専門科目			生命と法		ペットに関わる民事紛争が増えており、そこでは家族の中でのペットの位置づけが重要となる。本講義では、まず、「ペットの遺棄問題」や「ペットの殺処分」など関連する動物愛護法も紹介すると同時に先進国の制度をも紹介することにより、ペットの法的・社会的な位置づけを学ぶ。次に、それを前提として、民法に関連するペット問題を事例を通して解説し、様々な裁判例も紹介する。 現時点での我が国における動物愛護のための制度を学べるとともに、先進国の制度との比較を通して、理想とすべきペット社会について考えることができる。また、ペットに関連する法的紛争について解決方法を学ぶことができる。 本講義では、様々な事例問題を通してペットに関連する法や、先進国の制度を学んでいく。また、動物の福祉実現のために我が国において必要とされる法や制度等について、学生同士でディスカッションもしてもらう。	
			我々の時代の理解		本授業は講義形式である。現代世界は、紛争、貧富の格差、地球規模での環境破壊、大量の難民の発生など多くの問題を抱えている。本講義は主に世界の紛争に焦点を当てて授業を実施する。私たちがいま生きている現代世界は、どのような歴史を経て、世界のあちこちで紛争が起きているのか、歴史的背景を説明する。そして紛争に対して各主体（政府、国際機関、市民社会など）はどのように解決を試みているのかを説明する。そのうえで、現代世界で起きている紛争を分析できる知識と教養を習得する。本講義を通じて、学生は単なる知識の習得にとどまらず、世界的課題に対して一市民として当事者意識を持って解決していこうとする態度を身につける。	メディア
	基盤科目	専門基礎科目群	データサイエンス入門	○	本授業では、Society 5.0の社会で活躍するために必要不可欠な、数理・データサイエンスの重要性と可能性を理解し、その基本的素養についてオンデマンド教材を用いて習得する。 文系、理系問わず数理・データサイエンスの基本的素養が求められる中、本学学生が数理・データサイエンスを理解する第一歩となるよう、数学的説明をできるだけ省略しながら表計算ソフトの機能を用いて、情報を整理、分類、予測することを学ぶ。	メディア
			情報倫理	○	本授業では、「情報倫理」の基本から応用までを体系的に学ぶ。具体的には、情報倫理の概念やインターネット発展史を概説し、ネット時代のコミュニケーションやメディア・リテラシーを理解する。また、情報技術とセキュリティ、不正アクセスなどのサイバー犯罪、個人情報保護やプライバシーの取り扱いを修得する。さらに、知的所有権とコンテンツ、企業の内部統制と情報倫理、科学技術と倫理を理解し、ビッグデータ・AIの活用に伴う課題や、デジタルデバйд解消とユニバーサルデザインの考え方を身につける。これらを総合的に学ぶことで、実社会において適切に情報を扱う技能と態度を養い、安心・安全な情報通信社会に貢献する視点を確立することをめざす。	
			情報セキュリティ	○	本授業では、人的・技術的・物理的な脅威を概説し、リスクマネジメントやISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）を通じて組織の情報資産を保護する考え方を理解する。三大特性（機密性・完全性・可用性）や不正のトライアングルを踏まえた分析に加え、暗号技術（共通鍵・公開鍵・デジタル署名）やファイアウォール、WAF、SSL/TLS、WPA2、VPNなどの具体的防御策を学ぶ。また、バイオメトリクス認証や2要素認証、物理的セキュリティ対策の重要性を修得し、セキュリティポリシーの策定・運用方法を総合的に習得することをめざす。	

情報ネットワーク	○	本授業では、ネットワーク基礎からインターネットサービスまでの広範な知識を体系的に学ぶ。具体的には、LANとWANの違いやネットワーク機器（ハブ、ルーター、デフォルトゲートウェイなど）の役割を概説し、無線LANやイーサネットの規格、有線／無線それぞれの特徴を理解する。また、PoEやPLC、5G、さらには通信プロトコル（SMTP、POP、IMAPなど）を通して、ネットワークの仕組みや電子メールの動作原理を学習する。インターネットにおけるIPアドレス、DNS、URL、IPv6、NAT、DHCPといった概念も取り上げることで、ネットワーク全体像を把握できる内容となっている。さらに、電子メールの作法（To、Cc、Bcc）やWebサービスのRSS・cookieなど、実務に役立つ知識も取り上げる。	
情報と職業		本授業では、企業経営と情報システムを結びつけるプロセスについて概説し、情報システム戦略の立案から業務プロセス改善、さらにシステム開発の全体像を学びます。具体的には、EA（エンタープライズアーキテクチャ）やSoE/SoRを理解しながら全社的な最適化を考察し、バランススコアカード（BSC）やDFD（データフロー図）を用いた業務分析手法を修得します。加えて、BPR/BPMによる業務改革やRPA活用、オンプレミス・クラウドなどのシステム導入形態、IaaS/PaaS/SaaS/DaaSといったクラウドサービスの違いを理解し、BI・データウェアハウスを活用したデータ分析やデジタルトランスフォーメーション（DX）の考え方を概説します。最後に、ソフトウェアライフサイクルや共通フレームを把握し、企画・要件定義・調達計画で用いるROIやRFI/RFPについて検討します。	
情報と心理		本授業では、携帯電話、インターネット、SNSなどの新しいメディアの普及が、私たちのコミュニケーション行動や心理に与える影響を探究する。これらのメディアを通じた対人関係の変化、他者との距離の取り方、オンライン上での振る舞いなどについて、心理学的観点から考察する。また、デジタル環境における意見形成のプロセスに注目し、世論の形成・拡散のメカニズム、情報の信頼性、バイアスの影響についても検討する。特に、匿名性やアルゴリズムによる情報の偏りが、個人や集団の意思決定に及ぼす影響を分析することで、情報社会における適切なコミュニケーションの在り方を考える。本授業を通じて、現代の情報環境を理解し、より批判的かつ倫理的に情報を活用する力を養うことを目的とする。	
科学技術社会論		現代社会は科学・技術によって大いに支えられており、最早それらと不可分である。福島原発事故や新型コロナウイルスをめぐる騒乱、最先端の科学・技術が使われた兵器が世界中で使われていることを思い起こせば、科学・技術と社会が不可分の関係にあることはたちまち理解できるだろう。よって、社会をより良くしていくには、科学や技術自体を学ぶだけでなく、それらと社会との関係を理解することが必要である。本講義では、科学・技術と社会との関係を、歴史的事例と現代的事例の検討を通じて学んでいく。これによって、社会における科学・技術のあり方を分析する能力を身につけることを目的とする。	メディア
デジタルアーカイブ		我が国の文献には、〈ひらがな〉〈カタカナ〉漢字、などさまざまな文字がさまざまな時代、さまざまな立場の人たちによって、それぞれ異なる筆使いやくずし字で書かれている。この授業では、こうした、過去に書いた万葉仮名、〈ひらがな〉〈カタカナ〉〈変体仮名〉などで書かれた文献を解説するために、まずそれぞれの文字が使われた背景を知り、文書の触り方、文字の種類などの「知識」を得、さらにこうしたものを書くための「技能」を学び、かつAI技術を使ってどのように解析するか、その視点や態度を学ぶ。	
社会調査Ⅰ		本講義では、社会調査に関する基本的事項「社会調査とは何か」「社会調査の目的と種類」「社会調査データの読み取り」「社会調査の倫理」について学び、社会調査の企画から報告書作成まで、一連のプロセスを理解することを目的とします。2年次に取り組む「社会調査実習Ⅰ」での量的調査、「社会調査Ⅱ」での質的調査につなげていく。	

社会調査科目群	社会調査Ⅱ		本講義では、質的調査に関する全般的な知識を解説する。講義のなかでは、質的調査に関する基本的事項、歴史、注意点と倫理について説明し、観察、ドキュメント分析、インタビューを中心に様々な方法とその実践例を提示する。講義を通じて、今後の調査や実践に質的調査を生かしてくための能力を身につけることを目的とします。	
	社会調査実習Ⅰ		本講義では、社会調査の設計と分析に関する一連の作業にとりくみます。社会調査の種類と方法、標本抽出法、仮説検証の考え方、調査項目の設計、などについて学んだ後、実際に調査票を設計して、学生を対象に配布・回収します。また、データ入力・クリーニングなどの作業の後、クロス集計・相関分析・回帰分析などの基本的な統計分析を行います。	
	社会調査実習Ⅱ		社会調査の中でも質的調査に焦点を当て、その理論的背景と実践的手法を学ぶ。質的調査とは、インタビュー、参与観察、テキスト分析などを通じて、人々の価値観、経験、社会的相互作用を深く理解する手法である。授業では、まず質的調査の基礎概念や倫理的配慮について学び、その後、実際に調査計画を立案・実施し、データの収集・分析を行う。特に、フィールドワークの方法、インタビューの技術、コーディングやテーマ分析といったデータ処理の手法を重視する。また、得られたデータをどのように解釈し、論文や報告書にまとめるかについても指導する。実習を通じて、現場での課題発見能力や分析力を養い、社会現象を多角的に捉える力を身につけることを目指す。最終的に、受講生は自らの調査成果を発表し、批判的な視点から質的データの可能性と限界を議論する。	
	社会調査データ分析実習		社会調査の実践を通じて、データの収集・データのコード化から、コンピュータによるデータの分析までの一連の技法を実践的に進めます。社会調査データの精度、分析結果の信頼性、妥当性を認識し、さらに調査実施の際の注意すべき事項等に対する理解を深めることを目的とする。 (オムニバス方式／全30回) ④ 角田 弘子/13回 得られた社会調査データを調査目的に即して分析、解釈し、最終レポート作成までにつなげていくために、データクリーンから、集計分析、中間発表、調査レポート作成の構成までの一連の作業内容が理解できるよう講義します。 8 森本 栄一/15回 社会調査は様々な場面で、国民や消費者などの意見を聞く場面で重要な役割を担っています。社会調査の実際の場面を体験することで、社会調査の即戦力を養うことを目的としています。テーマ設定から調査票作成、調査実施、統計ソフトの使い方など社会調査の最初のステップの理解が得られるよう講義します。 49 松本 渉/2回 調査作成レポートの仕上げと、プレゼンテーションの基本を学び、最終発表会を実施します。発表者以外の他の学生、教員からの意見、アドバイスを受け、今後の課題点など振り返りを行います。	オムニバス方式
情報数理科目群	情報数理入門	○	この授業では、情報数理に本格的に取り組む上で土台となる数学的思考力の再構築を目指す。高校数学（数と式、関数、微分積分、離散数学、確率など）の主要トピックを広く取り上げつつも、単なる「復習」にとどまらず、毎回の授業で建築物の設計や経路最適化、信号処理、リスク管理など多彩な応用事例を紹介することで、数学がどのように実社会で機能しているかを実感できる内容とする。 さらに、計算そのものはソフトウェア（Python等）を活用して効率的に処理し、学生自身は「なぜその式が成り立つのか」「どうモデル化するか」「結果をどう評価・解釈するか」に焦点を当てて学ぶ。これにより、計算手順だけに終始するのではなく、問題を設定し、数学的手法を選択し、適切な解を導くという一連のプロセスを体験する。結果として、論理的かつ主体的に思考する態度を養うとともに、あらゆる分野で応用可能な数学的リテラシーを身につけることを狙いとする。	

	情報数理入門演習	○	本授業は、「情報数理入門」と連携し、同学期内に並行して実施する。主に高校数学（数と式、関数、微分積分、離散数学、確率など）のテーマを中心に、毎回の授業で取り扱った理論を実践的に確かめるための演習を行う。加えて、スポーツ科学や建築工学、金融工学などの分野における実際の応用例を題材とした問題演習を通じて、より深い理解と計算技術の習得を図る。また、手計算とプログラムによる計算を併用することで、計算過程を効率化するとともに、データサイエンスや情報デザインの実務に応用できるように、理論と実装を繋げる。	
	情報数理基礎Ⅰ	○	高等学校までに学んだ微分積分・数列・ベクトル等の数学的知識は、データサイエンスにおいて非常に強力な道具として活用されている。本授業では、高等学校における数学的知識を復習するとともに、大学数学における一変数関数の微分積分、行列の基本的な計算およびデータサイエンスにおける数学的知識の活用例について概説する。また、テーマごとに計算する機会を得ることで、一変数関数の微分積分や行列に関する基本的な計算に関する知識を定着させ、計算技術を習得する。	
	情報数理基礎演習	○	本演習科目は、「情報数理基礎Ⅰ」と連携し、同学期内に並行して実施する。主に微分・積分、数列、行列計算などのテーマを中心に、毎回の授業で取り扱った理論を実践的に確かめるための演習を行う。加えて、連続複利や人口モデル、画像編集など、実際の応用例を題材とした問題演習を通じて、より深い理解と計算技術の習得を図る。また、手計算とプログラムによる計算を併用することで、計算過程を効率化するとともに、データサイエンスや情報デザインの実務に応用できるように、理論と実装を繋げる。	
	情報数理基礎Ⅱ		『情報数理基礎Ⅰ』で学んだ微分積分・数列・行列等の数学的知識は、データサイエンスにおいて非常に強力な道具として活用されている。本授業では、『情報数理基礎Ⅰ』で学んだ内容を発展させ、多変数関数の微分積分、3次正方行列の基本的な計算およびデータサイエンスに用いるその他の数学的知識について概説する。また、テーマごとに計算する機会を得ることで、多変数関数の微分積分や行列に関する基本的な計算に関する知識を定着させ、計算技術を習得する。	
	情報数理応用		本授業では、現実世界を数理的世界と結びつける「数理モデル」の活用方法についてオムニバス形式で概観する。 （オムニバス方式/全15回） ⑨ 小林 祐一朗/7回 現実世界を関係性のネットワークとして捉えれば、ネットワークの構成要素のマッピングやシステム全体の改善がしやすくなる。 ⑧ 岡本 和也/6回 「動くもの」の集まりを、動きのルールを表す数理を使ってシミュレーションすることで、社会全体の動きを捉えたり、人間の移動に関わる利便性や安全性を高めたりすることができる。 ⑩ 小船 幹生/6回 フーリエ解析やウェーブレット変換を機械学習と組み合わせると、スポーツ・物理・映像・アートなど多彩なジャンルでデータ分析を行って現場の実践に活かすことができる。 これらの数理モデルの応用に触れることによって、デザイン思考や情報可視化の要素も取り入れた情報デザイン学部としての視点を踏まえながら、現実の問題に数理を応用するための数理的リテラシーを高めることを目指す。	オムニバス方式、 一部共同
統計科目群	統計学入門	○	仕事に統計学は欠かせないが『「統計学」とは何か』から始めて、統計的ものの考え方、データの集め方、基本計算法、結果の解釈、課題解決の一連の流れを理論と応用の中で学ぶ。特に、現実のデータからスタートし、それにふさわしい統計学の計算を行い、説得力ある結論に至る一連の取り組み方を中心に進める。「お買い得科目」=自分の手で書けば頭に入り生涯知識として自然に身につく。基礎としてはEXCELで十分。	

	統計学基礎 (多変量データ解析 を含)	○	「入門」の履修後、重要な統計的分析方法の理解、分析の実行、結果の解釈へと進むが実際には多変量解析がトレーニングの実地の場となり、その基本を学ぶ。事後学習作業は各自ノートPCによる。	
	確率論		確率は高校の内容から飛躍的に理論的にも応用においても発展する。自然科学においても社会人文科学においても極めて応用が多い。また確率論は公式も非常に多く、いろいろな目的に応用できる。ここでは、具体的な事例を挙げてEXCELで計算することによって確率的思考は人生全般に通じる教養の一部であり、またこれを苦手とする人々にとってもマスターは大変意義深い。回数が進むごとにレベルも高くなるが、ただちにすべて理解することはハードルが高いので、応用のスピリットを感じながらマスターすることを目指す。計算は基本的にEXCELで十分である。(オムニバス方式/全15回) 7 松原 望/10回 確率の考え方から条件付確率、確率分布を始め大数の法則、中心極限定理など基本的な内容と最後の15回目に応用としてファイナンス数理Ⅱを講義する。 ⑩ 小船 幹生/5回 統計の応用としてランダムウォーク、マルチンゲールからファイナンス数理の基礎を学習し、EXCELのみならずPythonも用いて結果を可視化することで、納得の度合を高める。	オムニバス方式
	ベイズ統計学		ベイズ統計学は新しい時代の統計学で、検定・推定ができない課題を解決できることに利点があり、現代的注目を引いている。経営・経済、医・薬、工学などの実際問題への応用も扱う。各回例題もミニ・プロジェクト型になっているのでJITとしても有意義。	
	比較統計分析		グローバル化の広がりの中、世界中の多様な地域を比較する際の指標は、経済、政治、国家、地域協力、法律などがある。統計を用いてそれぞれの地域を比較するための方法を身につける。特に確率論を用いた分析を習得する。 オムニバス方式/全15回 7 松原 望/2回 確率論は歴史を通じて科学や社会の発展に大きく貢献してきた。特に9つの確率が人間と社会を変えたことを学び、確率的思考が現代社会の多くの分野に影響を与えていることや、確率論を理解することで、統計の理論と実践の両面での見識が得られるよう講義する。 ④ 角田 弘子/13回 基本的な分析方法である比較統計分析を習得し、比較や確率がどのように生活に関連し、役立つのか知識を得る。データをどのように入手し分析するのか、特に比較が可能となる要素や調査の設計の仕方、分析やプレゼンテーション技法を学ぶことができる。国際比較調査の手法で現代のトレンドや時代をデータを用い分析する方法を講義する。	オムニバス方式
プログラミング科目	プログラミング入門	○	本授業では、プログラミング未経験者や初心者を対象に、実際のプログラミング言語(Python)をメインとしながら、プログラミングの基礎概念を学ぶ。環境構築の手順や複数の実行環境(ローカルPC、GoogleColabなど)を扱うことで、「Pythonの実行は一つのツールに限定されるものではない」という理解を深める。同時に、プログラミング言語の多様性や他言語(C言語、Javaなど)の例にも簡単に触れ、Python以外にも応用が効く考え方を身につけることを目指す。また、ハンズオン形式で操作を実践しながら、アルゴリズム思考や問題解決能力を養い、次の段階である「プログラミングⅠ」へスムーズに移行できる土台作りを目的とする。	

基幹科目

アルゴリズムとデータ構造	○	本授業では、良質なプログラムを設計するために不可欠な「データ構造」と「アルゴリズム」を概説する。最初の数回は配列やリスト、スタック、キュー、木構造、グラフなどの基本的なデータ構造の性質と利用シーンを整理し、それに基づく探索や整列のしくみを学ぶ。 授業の前半では特定のプログラミング言語に依存しない形で計算量や再帰処理などの考え方を理解し、アルゴリズム設計の基礎を身につける。後半ではPythonなどを用いた実装例を少しずつ紹介し、実際に手を動かしながらアルゴリズムを試していく。これらを通じて、プログラムの効率と可読性を両立するための基盤的な理論と実践力を修得する。最終的には、汎用的なアルゴリズムやデータ構造を「いつ・どのように」使えばよいかをイメージできるようになることを目指す。	
プログラミングⅠ		本授業では、Pythonを用いたプログラミングの基礎を体系的に学ぶことを目的とする。変数、制御構造、関数、データ構造といった基本概念を習得し、簡単なアルゴリズムの実装を通じて、プログラムを論理的かつ構造的に設計・作成する力を養う。 また授業内で実際にコードを記述しながら動作を確認し、エラーの修正や試行錯誤を重ねることで、プログラムの理解を深め、課題に取り組む中で、データ処理や自動化、シミュレーションといった実践的な応用力を培うことを目指す。なお、本科目は必修科目「プログラミング入門」を履修した学生や、既にプログラミング経験のある学生を対象としており、より実践的な内容と操作に踏み込む。	※演習, 共同 講義 18.5時間 演習 4時間
プログラミングⅡ		本授業は、Pythonにおけるクラスの使い方を学ぶことを通して、オブジェクト指向プログラミングの方法論を習得することを目的とする。オブジェクト指向プログラミングは、「カプセル化」と「情報隠蔽」の原則にしたがって手続きをまとめることにより、プログラムの部分間の役割分担を明確にできるとともに、「継承」のメカニズムによってコードの再利用性が高まる等、様々な利点があり、多くのプログラムのコーディングで実用されてきた。授業においては、オブジェクト指向プログラミングのメリットが分かりやすく表れるプログラミング課題に取り組むことで、具体例を通して実践的にオブジェクト指向プログラミングの方法論を身につけることを目指す。	
情報インストラクチャ 実習		本授業では、情報処理と通信を実現する機器を実際に用いながら、望ましいシステムを実現するための技術を身につける。物理的・基盤的なレベルで情報処理を実現する機械としての計算機を取り扱うことから始め、計算機のファームウェアの操作、Linuxオペレーティングシステムの操作の基礎、LAN（ローカル・エリア・ネットワーク）の構成、標準的なプロトコルを用いたネットワーク上の通信、Dockerを用いたアプリケーション実装、セキュリティ対策と、抽象的なアプリケーションのレベルに至るまでの技術を順次扱う。これにより、実社会で発生する情報化のニーズに応えるための能力をつけることを目指す。	共同
Webプログラミング		本授業では、現代的なアプリケーションを実装する上で重要となるWebプログラミングの技術を身につける。授業では、Webプログラミングのために実用されているPythonのパッケージを学ぶ。まず、Flaskを用いることでWebサービス構築の基本に慣れることを目指す。また、REST APIの概念を学ぶ。次に、多機能なWebアプリケーション・フレームワークとして知られるDjangoを導入し、Djangoで多用される機能を使いながら、その基礎的な設計思想を理解し、より高度なWebプログラミングができるようになることを目指す。Webサービスの開発で配慮が必要な情報セキュリティ上の注意点について解説し、Djangoにおけるセキュリティ機能も概観する。最後に、Dockerを用いたアプリケーションのデプロイにも簡単に触れる。	共同

機械学習科目群	機械学習入門	○	本授業では、機械学習にまつわる基本的な概念と問題関心を学ぶとともに、機械学習を利用するために必要なコンピュータ操作の技能を身につける。現代的な機械学習では、統計学と共通の概念や問題関心から発展した部分も多い。本授業の前半では、数学的な詳細の紹介は最低限にして、理解が比較的簡単な統計学のモデルを通し、モデルのパラメータ、損失の最小化、適切なモデル（アーキテクチャ）の選択、過学習、次元の呪い、教師あり学習と教師なし学習など、機械学習の基礎的な概念を概観する。また、後半では、より本格的な機械学習の方法論について概説し、機械学習の様々な方法のメリット・デメリットについても考える。授業全体として、適宜Pythonを用いて統計モデルのパラメータ推定や機械学習を行うことで、機械学習を実践的に理解することを目指す。	※演習, 共同 講義 18.5時間 演習 4時間
	機械学習基礎		機械学習の代表的な手法について、平易な分析事例を紹介しつつ、その仕組みを解説する。まず、回帰の手法として統計モデルの一つである線形回帰モデルを振り返る。次に、基底関数を組み入れることで、機械学習手法としての線形回帰モデルを導入する。モデルの推定手法として最小二乗法を紹介する。さらに過学習へ対処方法である正則化についても触れる。正則化の結果として得られるスパース回帰についても概説する。分類の手法としてはロジスティック回帰を紹介する。ニューラルネットワークの基本的な構造と幾つかのモデル例についても解説する。講義の後半では、サポートベクターマシン、決定木およびランダムフォレストといった代表的な手法を紹介するとともに、教師なし学習や強化学習についても概説する。	
	機械学習応用実習		本授業では、『機械学習入門』および『機械学習基礎』で学んだ機械学習や深層学習の知識を基に、社会課題の解決に取り組む。オープンデータを活用し、課題の選定、データの収集や前処理、モデルの構築と評価、および成果の発表までをグループワークで実施する。このプロセスを通じて、課題に応じた機械学習手法を選択・適用し、得られた結果を適切に分析・説明できる能力を修得する。また、プロジェクトの進行において他者と協力し、意見を尊重しながら成果物を共有する。さらに、データ利用に伴う倫理的課題や社会的影響について具体的に検討し、それを反映した解決策を提案する実践力を身につけることを目指す。また、本授業は実習をしながら学ぶ形式の授業で、常に教室に3人いて適宜学生に対応することを想定している。	共同
	AI概論	○	本授業では、生成AIを実際に使用しながら、適切に生成AIを利用するための能力を身につける。とりわけ、生成AIを活用するには、しばしばコンテンツの対象領域の専門的な知識（ドメイン知識）が必要になることを理解する。また、人工知能技術の現在とそれをめぐる社会的問題について概観し、人工知能の将来を探る。 生成AI等、機械学習によって実現される人工知能が広く用いられるようになったのは比較的最近のことであり、人工知能が多様な分野で発揮する高い能力に注目が集まる一方で、生成AIにまつわる倫理的問題や法の未整備等、社会的に対処すべき問題も多く提起されている。この授業では、新しい技術がもつ可能性とリスクの両面をバランスよく意識して人工知能の活用（または不使用）が実践できるようになることを目指す。	※演習, 共同 講義 18.5時間 演習 4時間
	AI応用演習		本授業は、ニューラルネットワークの具体的なモデルを対象とし、そのアーキテクチャ（全体構造）の理解を深めながら、実際にモデルを構築・実行する技術を習得することを目的とする。『機械学習基礎』で学んだニューラルネットワークの概念を基に、畳み込みニューラルネットワーク、オートエンコーダー、アテンション機構、敵対的生成ネットワークなどを学ぶ。これらのモデルを用いて、テキスト・画像・音声の生成を実現したうえで、生成結果を解析し説明を行う技術を習得する。さらに、初歩的な追加学習によるモデルの改良方法を学ぶ。これらを通じて、AI技術を応用し具体的な課題解決に取り組む基礎力を養う。また、本授業は実習をしながら学ぶ形式の授業で、常に教室に3人いて適宜学生に対応することを想定している。	共同

重点分野科目	農業	大規模データベース論		本授業では、大量のデータを効率的に扱う上で必要となるデータベースに関して、具体的なシステムを使うための技能を身に付けるとともに、データベースを適切に設計・構築して使用するために必要となる知識を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (⑨ 小林 祐一朗/3回) 関係モデルに則るものに限らない様々なデータベース管理システムや関連するライブラリについて概説し、想定される具体的なユースケースについて学ぶ。 (50 山中 卓・⑨ 小林 祐一朗/2回) 初回では、関係データベースの入門的内容を概説するとともに、Pythonを通して関係データベースを用いるための環境構築の方法を身に付ける。第6回では、サーバー上に実装された関係データベース管理システムにアクセスして操作する方法を習得する。 (50 山中 卓/4回) SQLの基礎的な文法と機能について学び、SQL文の組み立てとPythonからの実行の方法を習得する。 (35 大里 隆也/6回) 現実データを活用する上で必要となるデータリテラシーを身に付けるとともに、実社会でのデータベースの活用例について学ぶ。また、Webスクレイピングによりデータベースを構築する技能を身に付ける。	集中, オムニバス方式
		農業生産学	○	農業生産に関わる農学の概要について全体像を概説し、作物における農業生産について、時代の進展に応じた学問分野の実態を捉えながら、これからの農業生産のありかたについて講義形式で進め、農業生産に関わる知識を深めます。各授業時にその時間に扱った内容における課題を個人又はグループで考察し、毎時間ごとにレポートの提出を課します。3年次のインターシップを見据え、農業分野で最低限習得すべき内容に焦点を当て、農業生産分野における諸課題への解決能力を培います。	
		農業生物学	○	農作物の生物学的な性質を学ぶことは、農業全体のしくみを理解するうえで非常に重要なこととなります。本科目では農作物の生物学的な特性を理解するために、農作物の繁殖様式が種子繁殖と栄養繁殖に大別されることも踏まえながら、植物に関する生物学を概説します。具体的には、細胞の構造、代謝・呼吸・光合成、生殖、遺伝、植物生理に重点をおきつつ基本的に講義形式で授業を進めます。なお、毎回授業の開始時に、前回の授業内容の定着状況を確認するための小テストを10分程度実施します。農業生産に大きく影響を与える環境的側面を踏まえつつ、農業生産において生物学的に留意すべき課題を考察し、それを解決するための方法についてパワーポイントにまとめ、最終講において個人またはグループでプレゼンテーション発表を行います。	
		農業環境資源学	○	農業は、人類が野生植物を人工栽培環境下で最大限の特性を発揮できるように、非常に長い年月にわたり食料となる植物を品種改良して発展してきた。品種改良を行うための育種対象となる植物は多種多様であり、これらの植物種すなわち植物遺伝資源を消失させず後代に残すことは、地球環境レベルにおける人類生存の面で極めて重要なことである。本授業では、遺伝資源の国内外の情勢や、遺伝資源の探索・収集の実態、遺伝資源の後代への保存方法等について概説するとともに、遺伝資源を後代に残すうえで大きな影響を及ぼす環境要因についても学び、情報化社会における将来の新しい農業のありかたや食料資源として貴重な遺伝資源を安定的に維持する方法について考察する。	
		森林生物学	○	森林生態系は陸上において最もバイオマスの大い生態系であり、構成する樹木等の高等植物、動物、微生物も多様性に富み、互いに複雑に関係しながら生態系機能を果たしている。これらの多様性と機能を理解することは、森林生態系機能の維持や森林での持続可能な人間活動の計画には重要かつ不可欠である。本科目では、森林生態系を構成する高等植物、動物、微生物等の森林生物のそれぞれについて、系統分類、生理生態等の基本的な情報を学んだ上で、相利作用や寄生等の相互作用について正しく理解する。さらには、森林生物の多様性保全や樹木に対する動物・微生物被害の現状と対処方法の知識を習得する。これらを踏まえて、森林生態系における生物多様性と持続可能な生物の機能を考慮した森林管理を計画できる能力を習得する。	

		森林環境学	○	森林には、生物多様性の保全や、木材を中心とした人間生活に必要な材料の提供以外にも、地球環境保全、土砂災害防止機能、水源涵養機能、快適環境形成、保健リクリエーション機能、文化機能等の多面的機能が認められている。これらの多面的機能には森林そのものが何かを生産するというだけでなく、森林という環境が人間生活に間接的に提供するものや文化的・社会的な貢献等も多様に存在する。本科目では、これらの機能の多様性を正しく理解し、また人間生活との関わりや森林政策の歴史や現状への理解を深めて、これらの機能を損なわない森林管理を計画できる能力を習得する。	
		森林資源論	○	日本の森林面積が過去半世紀ほどの間に大きな変化を見せなかった中で、1990年頃までは人工林割合が増加し、40%ほどになっている。森林資源はこの人工林や天然林をどのように育成・管理・収穫していくかが重要である。本科目では、まず日本や世界の森林資源、木材生産の現状や動向について把握する。人工林を中心に育林技術、遺伝育種の技術を学び、森林計画や森林資源の評価について具体的な技術を学ぶ。また、森林管理や林業の現場で有用な技術や木質バイオマスの有効利用等の動向について理解を深め、様々なレベルでの、森林資源の持続的な有効利用について論じられる能力を習得する。	
		環境学基礎	○	環境学の基礎をしっかりと習得し、環境社会（eco）検定試験（受験は任意）合格を目指して、以下の項目について学ぶ。①地球に関する基礎知識。②人口問題などの地球社会問題。③地球温暖化とその対策。④エネルギーの種類と政策。⑤生物多様性と保全対策。⑥様々な地球環境問題とその対策。⑦廃棄物処理などの循環型社会。⑧大気・水質・土壌などに関する地域環境問題。⑨科学物質とそのリスク評価・管理。⑩災害・放射性物質とその対策。⑪持続可能な社会の実現。⑫企業の環境問題への取り組み。⑬個人・NPOなどの役割・連携。	
		環境学応用Ⅰ（国際環境法）	○	環境学・環境学基礎で学んだ様々な環境上の問題について、国際法の観点から、個々に対応する国際条約においてどのような規制がされているか学ぶ。総論として、国際環境法の形成経緯、持続可能な開発・予防原則などの国際環境法の基本原則、国際環境法における手続的義務、国際環境法における履行の確保について学ぶ。各論として、地球温暖化対策・オゾン層の保護・海洋汚染防止・海洋生物資源の保存・生物多様性の保全・希少野生動植物の保全・有害廃棄物の越境移動・貿易と環境・宇宙の環境問題について学ぶ。	
	環境	環境学応用Ⅱ（地球温暖化）	○	環境学・環境学基礎で学んだ様々な環境上の課題の中から、本授業では、地球温暖化対策に焦点を当て、2050年脱炭素化（炭素中立）を実現するための対策・課題について具体的かつ詳細に学ぶ。具体的には、①地球温暖化が発生するメカニズム。②地球温暖化によって発生する影響。③地球温暖化対策の基本的枠組みである国連気候変動枠組条約と同条約に基づき制定された京都議定書・パリ協定の概要と課題。④地球温暖化ガス（GHG）を削減し、脱炭素（炭素中立）を達成するために必要な対策。⑤GHG削減を促すための炭素税や排出量取引制度などの市場メカニズム。⑥地球温暖化による異常気象の影響を受けやすい発展途上国における気候変動適応対策。⑦気候変動緩和対策としての、省エネ・再エネ・水素・原子力などの代替エネルギー。⑧グリーン成長産業と経済・地域振興などについて学ぶ。	
		環境学応用Ⅲ（環境経済学）	○	環境学・環境学基礎で学んだ様々な環境上の問題について、環境経済学の観点から分析する。具体的には、経済成長と環境の保全、環境問題発生メカニズム、環境評価手法について総論的に学んだうえで、地球温暖化対策としての環境税や排出量取引制度に関する経済学的な比較考察や、環境と貿易、エネルギーの脱炭素化、持続可能な開発など各論について検討し、最後にこれらの環境上の諸問題について、企業がどのような社会的・経済的な責任を負うべきか学ぶ。	

スポーツ・健康情報	スポーツ・健康情報概論	○	現代社会においてスポーツ・健康に関する情報は多種多様化しているが、適切に情報を理解し活用するためにはスポーツ・健康に関する知見を用いて理解していく必要がある。スポーツ・健康に関するこれまでの研究成果に触れながら理解を深めると共に、自ら情報の収集と分析及び評価を行うことで、情報に対する理解度を高めることを目的とする。また、得られた情報について他者とのディスカッションを実践することで、スポーツ・健康情報を題材にしたコミュニケーション能力の向上を図るための授業を展開する。	
	スポーツパフォーマンス分析論	○	スポーツパフォーマンス分析は様々な競技現場、教育現場において活用されている。本授業を通しスポーツパフォーマンス分析の基本的な理論と目的を理解した上で、複数の測定機器を実際に使用しデータ収集、分析、そして分析結果の説明を行うことができるスキルの修得を狙いとする。また、本授業ではスポーツパフォーマンス分析により得られたデータの実用性に関するディスカッションを行うことで、データの理解度を高めるための授業を展開する。	
	スポーツコーチングとデータ活用	○	スポーツコーチング現場におけるデータ活用は様々な競技において行われている。本授業を通しスポーツコーチングに有効なデータ活用方法に関する基本的な知識を理解し、スポーツコーチングに必要なデータの収集、分析に関するスキルの修得を狙いとする。また、データ活用を用いたスポーツコーチングにおいて、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことは重要である。そのため、グループディスカッションを通し、スポーツコーチングに必要なコミュニケーションスキルを修得すると共に、データの説明やデータを用いた作戦、戦術に関する提案ができるスキルの修得を目的とする。	
	QOL統計学	○	QOL (Quality of Life: 生活の質) の概念を学び、その測定と評価に統計学を活用する方法を身につけるQOLは単なる数値や指標だけで評価するものではなく、人生の意味、価値、幸福、自由などの哲学的概念と深く関わっている。哲学的視点を持つことで、個人や社会にとって「何が本当に大切なのか」を深く理解し、より良いQOL向上のための指針を得る。	
経営・マーケティング	ビジネス・ベーシック	○	企業活動を理解するために必要な基礎知識を体系的に学ぶことを目的とする。経営学、商学、会計学のビジネスに関わる3つの主要学問領域を横断的に取り上げ、それぞれの基本概念や理論を学ぶ。経営学分野では、経営戦略論と経営組織論を通じて企業戦略の立案や組織運営の基礎を理解する。商学分野では、マーケティング論を通じて市場分析や顧客理解の手法を修得する。会計学分野では、簿記の基礎や財務諸表の構造を学び、企業活動を数値的に捉える視点を養う。これらを通じて、企業の成り立ちや仕組みを総合的に理解し、ビジネスリテラシーの向上を図る。	
	マネジメント論	○	マネジメントの基礎を体系的に学ぶ。企業経営に限定せず、官公庁、非営利団体、教育機関、医療機関など、さまざまな組織におけるマネジメントの考え方や実践手法を幅広く扱う。特に、データサイエンティスト養成を目的とする学科の専門科目であることを踏まえ、データを活用したマネジメントの実例を豊富に取り入れる。 講義は、講義形式に加え、アクティブラーニングを導入し、実践的な理解を深める。学生は、実データを基にしたケース分析やレポート作成を通じて、データを活用したマネジメントの手法を実践的に学ぶことができる。本講義を通じて、データサイエンスの視点を持ちつつ、組織運営の効率化と意思決定能力の向上を図ることを目指す。	
	アカウンティング論	○	ビジネスパーソンの必須リテラシーである財務諸表の構造を理解し、基本的な分析手法を学びながら、財務諸表に関する理解を深める。財務会計のみならず管理会計、税務会計についても学び、ビジネスモデルとその価値の源泉を見極める目利き力を高め、最終的にはビジネスを定量的に評価する手法を学ぶ。具体的なケーススタディも取り上げ、より実践的な学習も行いつつ学んだ知識の定着化を図ることを目的とする。最終的には経営者として必要な数値的な感覚・素養を身につけることを目指す。	

		マーケティング論	○	本講義では、マーケティングの基礎を体系的に学ぶとともに、企業広報やブランディングとの関連性を重視し、マーケティング戦略を総合的に理解することを目的とする。従来の商品のマーケティング手法に留まらず、企業のESGやCSRに関する取り組みを、企業広報やブランド戦略との関係で分析する。講義では、理論的な知識の習得に加え、データ分析を活用したマーケティング戦略の策定を重視する。本講義を通じて、学生は、データを活用したマーケティングの手法を修得し、持続可能なビジネス戦略の策定や企業広報の最適化に貢献できるスキルを身につけることを目指す。	
文化情報		文献アーカイブ概論	○	現在、世界各国で、過去の文献、文書が広くインターネットで公開されている。たとえば、米国議会図書館には約1億8000点もの資料、書籍を所蔵するが、デジタルアーカイブに到っては、400以上の言語による幅広いジャンルの希少で信頼性の高い資料が含まれる。特に注目されるのは、185ペタバイトに及ぶパブリックドメインのデータが無料で提供されている。こうした文献を自由自在に使いこなすためには、書籍や文献の最も基本的、基礎的な作られ方を理解しておかなければならない。そういう意味から、本授業では、「文献」の基礎的な「知識」を学び、技能として文献を扱うための態度と、その視点について概説する。	
		食と文化	○	全世界、それぞれの地域によってそれぞれの食物があり、それぞれの「文化」が形成されている。北極の極限に住む人たちから、アフリカの砂漠に住む人たちまで、食べるものによって人の思考方法は変化する。食べることを目的に生きることから、おいしさを追求するガストロノミー、また宇宙食などの「栄養」だけを考える「食」に対する様々な視点があるが、この授業では、人と「食」の関係、「食材」の流通によって生まれていく「人と人との交流」や「流通」が創り出す文化についてさまざまな視点を「知識」とし、それらをどのように「分析」するかなど「技能」的な態度を概説する。	
		ことばと文化	○	「文明」と「文化」の違いは、それが普遍的であるか否かということであろう。英語は現在、世界の共通語となっているが、「世界共通語」という意味では、人工的に作られたエスペ란anto語なども存在する。しかしその普及率は非常に低い。そもそも「ことば」は、どのように次の世代に伝えることができるのか、また方言など非常に個別的局所的な「ことば」が失われていくことが、「文明」とどのような関係があるのかどうか。また「新しいことば」を学ぶ技能はどのように磨くことができるのか、さらにことばに対する「知識」、ことばを学ぶための「態度」について概説する。	
		情報と文化	○	「情報」とは、共同体、あるいは個人に外部から影響を与えるすべての刺激であるとも言える。ネットや新聞、テレビやラジオなどから得られる「情報」だけとは限らない。はたして、「情報」が個人の思想や、大衆の動きを作っていくとすれば、まず「情報」と呼ばれるものにどのようなものがあるのか、「知識」として知る必要がある。また人の動きが「文化」を作っているとするならば、どのようにして「文化」が形成されたのか、情報使い方、使われ方なども検証されなければならないだろう。この授業では「情報」を再度、ニュートラルなもので捉え直す態度や、情報を分析する技能や知識について概説する。	
		アジア理解 I	○	アジアという地域概念は、ヨーロッパ中心の世界観のなかで揺れ動いてきた。また、植民地時代を経て国民国家へと至る道のは苦難の歴史でもあった。だが、他方ではヨーロッパ起源の国民国家の枠組みを相対化することで見えてくるアジアの豊かさがある。本講義では、アジアの特徴を多角的に把握することをめざす。また、近年のアジア研究の問題関心に立脚して、ネットワークの視点からアジアを捉えることでその発展の原動力を理解する。	

		国際関係	アジア理解Ⅱ	○	本授業では、アジアが抱える政治や経済の諸問題について探究する。主に東アジア、東南アジアの例を中心とし、知識・情報もさることながら対象のもつ構造を理解することに注力する。個別の国々に特有の事情や条件があることは念頭に置きながらも、全体的な構図を把握することを重視する。政治発展の課題や経済開発のあり方など、混迷を極める世界情勢のなかでアジアがこれからどういう方向に向かっていくのか、学生ひとりひとりが考えていくためのヒントを提供する。	
			開発×DX	○	途上国の社会がいまどのような課題（開発及び紛争）を抱えているのか、確認するとともに、デジタル技術はそれに対してどのような解決策を提示しようとしているのか、テーマごとに理解を深める。日本経済新聞やNikkeiAsiaの購読、スクラップ作成を通じて広範な情報を的確にまとめていく訓練を行う。IT技術が発展するなか、世界が従来の中心と周辺といった二項対立的な構図からダイナミックに変わりつつあることを考える。 (オムニバス方式 全15回) ⑤ 内藤 耕/8回 途上国における開発課題ごとのDX例の探究。 6 増古 剛久/7回 途上国における開発課題の確認。	オムニバス方式
			グローバル・コミュニケーション論	○	インターネット環境の普及は、情報やコンテンツの国境を越えた流れを常態化させてきた。本授業ではこれにより国民国家の枠内で強固と思われた従来型のマス・コミュニケーションが陳腐化していった過程を追う。人工衛星、携帯電話やスマートフォンなど技術の発展がもたらした変化に力点をおきたい。国家と国家のコミュニケーションとしての国際コミュニケーションはグローバル化のなかで弱体化しているように見えて、国家を超えた弱肉強食の構図はより強くなっているのかも知れない。情報主権モデルの再構築を視野にいった議論を展開する。	
実践教育科目			社会実装実習（インターンシップ）事前学習	○	ビジネスマナー等は、本来、会社や上司から研修、指導を受けるものであるが、自身のキャリア形成の中で、自らの意思によるキャリアアップを選択する時代であり、所属先に依存することなく自己成長を果たし、未来を自分で切り開く姿勢と知識が必要になってきている。 インターンシップを開始するにあたって、社会人としての基礎的な常識・マナー・慣習を身につけ、インターンシップ先（企業・自治体等）の業務内容や役割、抱える課題等について考察し、自己分析を通じ、自身の希望インターンシップ先を選択することができるようになるための知識やAIをはじめとする様々なデジタル技術を駆使して課題発見・解決を行うためのDXの考え方、その手法、フレームワークを講義する。 当科目は、全回を2名の教員で担当するチーム・ティーチングを通してきめの細かい指導を行う	共同
			社会実装実習（インターンシップ）	○	社会実装実習（インターンシップ）事前学習の単位を取得していることを前提に、実務経験を提供し、専門的なスキルと知識、自主的に考え行動する力を獲得することを目的とした長期インターンシップを行います。 社会実装実習（インターンシップ）事前学習の内容やインターンシップの意義を復習したのち、各実習先へ赴き、インターンシップを実施します。 実習先のプログラムに基づいて、事前の目標を立てるとともに中間、事後の振り返りを徹底し、PDCAを回します。学んできたDX手法を実践応用し、DXの実践的な進め方を学習します。実習期間中は、有益なインターンシップが行われるよう、定期的な報告・連絡・相談（ホウレンソウ）、面談等通じた管理運営を行います。 インターンシップ終了時には、インターンシップで得た知識や自身の適性・課題等をまとめた実施結果レポートを作成しま	集中

	情報デザイン演習	○	1・2年次で修得した数理・データサイエンス・AIなどのスキルと社会実装実習（インターンシップ）での経験を統合する、PBL（Project Based Learning）形式のキャップストーン科目である。学生は重点分野（農業・環境・スポーツ・健康情報、経営・マーケティング等）を選択し、担当教員のゼミに所属する。演習では、①テーマ設定 → ②データ分析 → ③社会実装の検討 → ④アウトプット制作 → ⑤振り返りという一連のプロセスを通じて、学生が主体的に課題発見から解決策の提案までを一貫して実践する。これにより、実社会で通用する課題解決能力と実践力を養う。	
	卒業プロジェクト	○	本授業は、PBL（Project Based Learning）を通じて、地域の課題から国際的な問題まで多様なテーマに取り組むことを目的とします。学生は、自由な発想を基に、デジタル技術やデータサイエンスを駆使して課題解決策を模索します。授業では、実践的な問題解決能力を養うとともに、調査を通じて得られたデータの整理・分析・考察を行い、プロジェクトを完成させる力を身につけます。 授業進行にあたっては、定期的に発表・討論を行い、各学生の進捗状況に応じた個別指導を行う。プロジェクトの最終的な成果物は、卒業プロジェクト発表会での発表・報告を行う。	
	教育基礎論		教育の基本的概念および教育に関する歴史と思想 ①教育の理念・本質について教育学の基本的概念と教育を構成する諸要素と諸関係を理解している。 ②教育史・教育思想史を基に近代公教育制度の成立や現代の教育課題について史的考察ができる。 ③教育や学校、家庭、子どもをめぐる諸問題を理解し、より良い教育を作るための知見を豊かにする。 教育とは何か？この本質的な問いに対し、教育をめぐる歴史、現状などから学び、その背景や教育の特色を検討することを通して教育についての考察を深める。それを基に人間にとって社会にとっての教育の意味とあり方を受講生とともに考えていく。	
	教職論		教職の意義、教員の役割、職務内容についての多角的な検討と考察 ①教員に求められる役割について理解できる。 ②教員の課題解決に必要な資質、能力などについて理解できる。 ③教職に関わる制度について理解し、教職に関わる改革の特質と課題について理解できる。 教職の意義、教員の役割、職務内容についての多角的な検討を行っていく。また子どもに向き合う実践力を身につけるために、事例研究、グループワーク、ディスカッションなどの参加型の学習方法を用いて進めていく。	
	教育制度論		I 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識 II 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方 III 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組 ①公教育の原理及び理念を理解している。 ②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 ③教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 ④教育制度をめぐる諸課題について考察することができる。 教職に就くにあたり、必要な教育関係法規や制度について、内容とその理念を理解し、知識を身につけること、また、それを踏まえて、問題点や課題について考察することを中心に行う。現在の教育を方向づけている基本的な法規や制度を学び、それらの現状とこれからの課題について参加者同士の話し合い、意見を出し合っていく。また、重要な課題の一つとして、地域との連携や学校安全の問題について実践と制度両面で検討を加えていく。	

教育心理学		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し説明できる。 ②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解し説明できる。 ③様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し説明できる。 ④主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解し説明できる。 ⑤幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し説明できる。 発達、学習のメカニズム、学習指導と教育評価、集団の特性、障害と特別支援教育の5つの視点から、広く教育に関わる心理学的知見を取り上げる。	
情報科指導法Ⅰ		本授業では、共通教科情報科や情報Ⅰの目標、さらに各章の目標を正確に理解し、指導内容の根拠を確認したうえで、情報Ⅰの具体的な指導計画や実践方法を中心に学習する。講義、演習、発表、模擬授業など多面的な学習活動を通して、情報科の教員として必要となる基礎的知識や指導技術を総合的に身につけることを目的とする。また、教科書や指導要領などを活用しながら授業設計や評価方法を学び、実際の教育現場での応用力を身につける。	
情報科指導法Ⅱ		本授業では、情報科指導法Ⅰで学んだ基礎知識を活かし、情報Ⅱの目標や各章の目標を深く理解したうえで、実際の指導内容や指導計画、さらに実践方法を中心に習得する。講義や演習だけでなく、発表や模擬授業などの多様な活動を通じて、情報科教員として不可欠な専門知識や指導技術を身につけることをめざす。具体的には、教科書や指導要領を参照しながら各テーマの授業設計や評価方法を検討し、実際の教育現場で応用可能な指導力を養成する。	
特別支援教育入門		・特別支援教育・支援が必要な子ども・障害のとりえ方・障害者権利条約・障害のある子どもの理解と対応・障害のある子どもと学校教育・インクルーシブ教育 特別な支援が必要な子どもの理解と受け止め方、支援・指導等の方法、そして学校教育の現状と課題について学修することにより、特別支援教育への理解と、支援が必要な子どもへの指導に関心がもて臨めるようになる。 小・中・高校及び特別支援学校の授業を想定し、支援が必要な子どもへの教授法も取り入れ、アクティブラーニングを活用した参加型の双方向の授業を展開する。	
教育課程論		教育課程の意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメント ①教育課程に関する基礎的な知識を身に付け、その役割・機能について理解できる。 ②教師が主体的にカリキュラムを組み立てていくために必要な基本的な知識や考え方について理解できる。 ③各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義と編成方法について理解できる。 カリキュラムとは何かという問いから教育課程に関する基礎的知識を概観していく。次いで教育課程の国家基準である学習指導要領の歴史的変遷を辿ることで、学校教育の教育活動の全体的な計画である教育課程の意義を考える。また新学習指導要領改訂の社会的背景について検討を加え、教育課程の役割・機能、編成の方法について理解を深めていく。	

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間 特別活動 ①総合的な学習の時間と特別活動の内容、役割、特徴について理解できる。 ②児童生徒の主体的、実践的活動を支えるための指導や支援の在り方について考察できる。 ③実践事例や課題を知り、今後の教育実践に応用できる。 総合的な学習の時間と特別活動について基礎的知識を身につけて、実践例を通して理解を深める。学校現場では教師集団や保護者・地域と創造していく教育活動であることを理解し、内容ごとにグループワーク等で課題解決する参加型の学習を計画し進めていく。また、グループワークを通して児童生徒の主体的、実践的活動を支えるための指導計画の作成を試みる。	
教育方法と技術		変化の激しいこれからの社会を担う児童・生徒に求められる資質・能力の育成に必要な教育方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む）を身に付ける。教育方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。 急激な社会変化を伴う「知識基盤社会」において、教育の在り方が問い直されている状況の中で、一人の教師としてその指導における責任の重さと、教師に対する期待の大きさに応えられる教師を育成するために、学習基盤・学習指導・学習評価などの基礎的な理解を体得させるとともに、その方法と技術の在り方について、指導案の作成等を通して実践的に理解する。 「主体的・対話的で深い学び」の実現の方法の一つとして、情報機器の活用とその効果について、指導目標の実現との関連において理解する。授業の中で、児童・生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確に把握したり、学習内容を的確にまとめさせたりするために情報機器の活用の方法について理解し実践する。また、情報通信技術を活用した校務の合理的・能率的な推進について理解する。	
生徒指導論・進路指導		生徒指導の意義・さらには個々の生徒に指導できるだけの知識を習得する。 具体的には、①生徒指導の概念を説明することができる。②幼児期・児童期の発達心理、特に、人格形成、発達の、精神的障害の基礎について説明することができる。③現代の子どもを取り巻く問題から子どもについて理解できる。④中・高等学校における職業指導の意義・重要性と歴史的変遷、職業選択の方法論的特徴を理解できる。⑤自分の将来を展望でき、自分の進路を自ら見つける力を育む、進路指導における諸問題について理解できる。 子どもと生涯発達心理学の視点を踏まえ、必要なことを適切な発達段階で学ぶこと、生きていくための価値観やキャリアについて学び、一人一人の子どもを多面的に理解できる教師を目指すよう授業を進める。	
教育相談		学校教育上のさまざまな諸問題や課題に対して、教育相談の役割や方法を学び、適切な児童生徒支援の在り方を学習する。 この授業をととして、①教育相談に関する基礎的な知識・カウンセリング技法を理解し、説明できる、②学校や教育場面で対象となる児童生徒の諸問題についての理解を深め、説明できる、③事例から、諸理論及び技法をどのように活用するかを学び、より実践に即した知見を身につけることができるようになる、以上3点を到達目標とする。 子どもをめぐる様々な問題（家庭環境、学校生活、経済問題、社会問題）から生じる悩みや苦悩に焦点を当て、教師がどのようにサポートし、支援できるかを教育相談の知見から検討する。そのために基礎的なカウンセリング技法を習得することで、問題への対処法を学ぶ。また、子どものみならず保護者への対応、地域社会・リソースについても学び、1人の子どもに対してどのような支援方法があるのかを学ぶ。	

教育実習事前及び事後指導	(概要) 3年次、4年次と2年間にわたり、学生にとって教職教育の最重要課題である教育実習を効果的に実施することにより、一人の教師としての責任感を自覚させ、教育観や使命感を覚醒させ顕在化させることを目的とした体験学習である。教育実習をより効果的に実施するための入門と準備、教育実習において習得した成果の共有を図ると共に、それらを一人の教師としての責任感と使命感につなげ、教育に対する強い意志と大きな抱負を持ち、自らの卒業後における教育実践をより充実させるための極めて重要な体験学習活動である。 教員免許状を取得するための教職教育で最も重要な必修科目が「教育実習」であり、本授業では、教育実習の前に必要な心構えと知識・技術を学ぶ。また、教育実習終了後には、各自が実習を振り返って分析・考察した後、実習生同士が研究授業を中心に実習体験を述べ合い、ディスカッションを行うことで、教職に関する臨場的な経験知の共有をはかり、教職への自覚と責任を深化させる (オムニバス方式/全15回) (26 安ウンギョン、27 荻原孝之、28 奥泉雄一、29 高野能弘、32 青柳慎一/2回) オリエンテーション、まとめ (26 安ウンギョン/3回) 教師と教育法規、主体的・対話的で深い学び、学習基礎の確立と学習指導 (26 安ウンギョン、27 荻原孝之、28 奥泉雄一、29 高野能弘/3回) ゲストスピーカー1～3 (27 荻原孝之、28 奥泉雄一、29 高野能弘/1回) 文化祭参加 (27 荻原孝之、32 青柳慎一/1回) 研究授業実施 (27 荻原孝之/1回) 学校・地域・家庭連携 (29 高野能弘/1回) 学校保健・安全指導 (27 荻原孝之、29 高野能弘、32 青柳慎一/3回) 模擬授業	オムニバス方式
教育実習Ⅱ	高等学校教諭を志す者が、一定期間、学校現場において、原則として「授業観察・研究指導・教材作成補助」、「授業実習」、「指導教員による研究授業」、「学級経営への参加」等を中心として実施する。 一連のプロセスを通して、教員に必要とされる教育的信念および情熱、専門知識および技術、研究的態度及び能力など、実践的指導力の基礎を培うことを到達目標とする。 高等学校教諭を志す者が、一定期間、学校現場において、原則として「授業観察・研究指導・教材作成補助」、「授業実習」、「指導教員による研究授業」、「学級経営への参加」等を中心として実施する。これらの一連のプロセスを通して、教員に必要とされる教育的信念および情熱、専門知識および技術、研究的態度及び能力など、実践的指導力の基礎を培うことを到達目標とする。	集中

	教職実践演習（中・高）	これまで履修した内容を吟味し、教職に必要な心情・知識・技術を自己省察して、不足する事項を補強することとする。 ・履修カルテを用いて、教職に必要とされる知識や技術を振り返り、説明することができる。 ・自らの知識や不足する事項について説明し、不足部分を補うことができる。 ・介護等体験や教育実習での経験を踏まえて、学校・教師・生徒の現実的な理解という教育臨床に関する領域について説明することができる。 ・様々な教育現場に関わる方々（卒業生を含む）の体験的な教職教育の講話、学校見学、授業見学を経験することで、教育についての自分なりの意見や考え方を説明することができる。 主に、学校・教師・生徒の現実的な理解という教育臨床に関する領域について指導を行う。そのため、様々な教育現場に関わる方々の体験的な教職教育の講話や学校見学、授業見学などを中心に指導を行うこととする。 （オムニバス方式/全15回） （26 安ウンギョン、27 荻原孝之、28 奥泉雄一、 29 高野能弘、32 青柳慎一／2回） オリエンテーション、まとめ （26 安ウンギョン／3回） 教師と教育法規、主体的・対話的で深い学び、学習基礎の確立と学習指導 （26 安ウンギョン、27 荻原孝之、28 奥泉雄一、29 高野能弘／3回） ゲストスピーカー1～3 （27 荻原孝之、28 奥泉雄一、29 高野能弘／1回） 特別支援学校の現状（文化祭参加） （27 荻原孝之、32 青柳慎一／1回） 研究授業実施（見学）（27 荻原孝之／1回） 学校・地域・家庭連携（29 高野能弘／1回） 学校保健・安全指導 （27 荻原孝之、29 高野能弘、32 青柳慎一／3回） 学習指導案作成、模擬授業	オムニバス方式
--	-------------	---	---------